

(様式5)

# 調査報告書

訪問調査日	2008年10月17日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 15時 00分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 花神荘 ( 鹿児島県 )
-------------------	-------------------------

## 外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<b>30</b>

評価調査員の氏名	氏名 <u>石松 成子</u>
	氏名 <u>中村 朋美</u>
事業所側対応者	職名 <u>理事長・管理者・計画作成者</u>
	氏名 <u>吉川洋子・染木公子・宮脇直孝</u> ヒアリングを行った職員数 <u>5名</u>

<p><b>※記入方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。</li> <li>●「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。</li> </ul> <p><b>※項目番号について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●外部評価項目は30項目です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。</li> <li>○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>※用語について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある)</li> <li>●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。</li> <li>●職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。</li> <li>●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。 関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。</li> </ul>
---

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 10月 18日

### 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4677400139号		
法人名	社会福祉法人 恵誠会		
事業所名	グループホーム花神荘		
所在地	鹿児島県肝属郡肝属町後田2542-1 (電話) 0994-65-7666		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年10月17日	評価確定日	平成20年11月15日

【情報提供票より】 (20年 9月 1 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 11 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14人, 非常勤 0人, 常勤換算 14人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り平屋建て 造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,700 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有 ( 円) ○無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有 ( 円) ○無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 780 円		

### (4) 利用者の概要 ( 9月 1日現在 )

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	9名	要介護4	5名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 86.8歳	最低	74歳	最高	97歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉川医院 ・ みやぞの歯科
---------	---------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

明るくゆったりとした環境の中で、管理者・職員は地域密着型サービスとしてのホームの役割を理解し、利用者を中心に、地域の中で暮らし続けることを支えるサービスとして、毎日のケアを実践している。利用者一人ひとりを大切に支援し、法人も地域の医療・福祉の中心としてバックアップしているので、利用者・家族は安心して暮らしている。計画や日々の生活記録も丁寧に見やすくまとめられ、利用者に即した支援が充実しているホームである。

### 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	年間の研修計画を立て、職員がペアで研修課題に取り組み発表するなど、職員を育てる取り組みができています。同業者との交流も研修会を実施するなど、改善されています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の意義を理解し、職員全員でケアを見直す機会と捉え前向きに取り組んでおり、サービスの質の確保や向上に活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議で検討された同業者との交流については、町担当者の協力があがり、研修会を実施して交流を進めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月ホーム便りを発行し、利用者の暮らし振りなど写真を掲載しわかりやすく報告している。家族会や運営推進会議等で家族の意見を聞く機会を設け、運営に反映させるよう工夫している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	法人の夏祭りに地域住民を招待したり、自治会の行事や活動への参加、近所の子供達が気軽に訪問するなど、積極的に地域との交流を進めている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時の理念を見直し、住みなれた地域で安心して暮らし続けることを支えていくサービスとして、独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業計画に理念を柱とした方針を掲げ、毎日のケアに取り組んでいる。管理者・職員は職員会議等で理念について話し合い、共有している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人の夏祭りに地域住民を招待したり、自治会の花見や十五夜などの活動への参加をしている。また近所の子供達が気軽に訪問するなど積極的に交流している。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義を理解し、職員全員でケアを見直す機会と捉え前向きに取り組んでおり、サービスの質の確保や向上に活かした支援を行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で地域の状況や意見を聞く中で、地域住民や家族との意思疎通が図られ、そこでの意見を詳しく記録し、サービスの向上に活かしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者に、運営や現場の実情等を伝えて相談や協議をしており、サービスの質向上のための連携が築かれている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に話したり、毎月ホーム便りで利用者の暮らしぶりをわかりやすく報告している。金銭管理は残高証明書で確認してもらい、健康状態はそのつど電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族会代表として参加し、家族の思いを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は馴染みの職員による支援の重要性を認識しており、異動や離職を最小限におさえるよう努力し、やむを得ない場合は経験者を採用するなど工夫している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内やホーム内研修等の計画を立て研修の機会を確保している。研修報告書を作成し、他の職員も内容を共有できるよう配慮している。資格取得をする場合にも支援体制がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町担当者の働きかけにより、他のグループホームと合同の研修会が実施され意見交換などができ、交流を通じて、サービスの質向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、自宅を訪問して馴染みの関係づくりをしている。またホームにお茶のみに来てもらい徐々に慣れてもらうよう工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜作りや料理・会話などを通して教えてもらったり、気遣ってもらったり、助け合ったりして、支えあう関係が自然にできている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向をありのままの言葉でアセスメント等に記録しており、利用者本位の支援をしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の思いや意向を聞き、主治医や関係者の意見を参考に、担当者会議を開催し、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日、介護計画の実施表を記録し、毎月評価を実施し、3ヶ月毎に本人・家族と話し合い、計画の見直しをしている。状態変化時には臨機応変に見なおしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と相談し、病院受診や通院介助・自宅訪問や美容室・墓参りなどの送迎を支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する主治医の受診を支援している。主治医の指示により、適切な病院の医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や終末期の事業所の対応について説明している。必要時に家族と主治医の意見を基に関係者で話し合い、方針を共有するようにしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを大切に、入浴や排泄など気配りや声かけなど配慮している。個人情報の取り扱いについても配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝・食事時間などそれぞれのペースで自由にできるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望を聞きながらメニューを決めている。利用者と職員と一緒に買い物や調理・盛り付け・片づけなどを行い、楽しく食事を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入居者の希望の時間帯に、一人ひとりが入浴を楽しめるように支援している。また入浴剤を入れて温泉気分を味わってもらうなど工夫している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や残存能力など考慮し、その人にあったレクリエーション・頭や体の体操等、役割や楽しみごとを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、庭のベンチで過ごしたり、散歩をしている。買い物やドライブを兼ねた花見や遠足など楽しんでいる。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けないケアを実践している。職員が利用者の状況を把握し、その人にあった言葉かけや対応をして支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム独自の訓練や消防署の協力をもらって防火避難訓練を実施している。地域の消防分団や自治会長にも協力を呼びかけている。救命救急の講習会も交替で全職員が受講するなど、災害対策に前向きに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、献立の栄養バランスは施設の栄養士に見てもらっている。おかゆやおにぎり等食べやすいように工夫している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたリビングは高い天井や天窓があり、対面式の台所と畳コーナーやウッドデッキのテラスなど、明るく開放感がありゆったりと過ごせる空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたテレビやテーブル・椅子・衣装ケース・オルガンなどを持ち込み、家族の写真や自作のパズルなどを飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。